

第14回総会報告

多彩な活動

会員の拡大を



議長に市塚守さん

6月10日土曜日、群馬県教育会館でぐんま教育文化フォーラム総会が開催されました。22人の会員が出席し、議長に選出された市塚守さんによって、2022年度の活動のまとめ、2023年度の活動方針、部会活動、予算・決算についての議事進行がおこなわれました。要点を報告します。会員のみなさんには議案書を送付いたしますのでご意見を「フォーラム」までお寄せください。

これまでどんな活動をしてきたか

「フォーラム」活動の中核をなすものは年に4回のニュース「育ちと学び」の発行です。2022年度は学校現場への取材活動の機会が増えて、「すなっぷ」シリーズで高校生の姿や教職員の声を伝えることができました。そのほかにも「トピック」「共同研究者の部屋」「スクールカウンセラーだより」「若者のひろば」「連載コラム」など、さまざまな話題を含む紙面作りを心がけました。

また粘り強く取り組んだ活動のひとつとして教育委員会会議の傍聴をあげることができます。傍聴後に会議の内容を運営委員会で報告し、「ちょこっとこめんと」として意見をまとめてホームページに掲載してきました。教育委員会や県庁の記者クラブにも届けて私たちの活動をアピールしました。

ホームページの充実にも取り組みました。部会活動や「育ちと学び」の記事をカラーで紹介し、フォーラム活動のアピールに大きな役割を果たしています。

これからの活動

私たちの組織の前身である「群馬県高校教育研究所」から現在の「ぐんま教育文化フォーラム」にかわって14年が過ぎました。新しいメンバーも加わって新鮮な観点で運営しています。部会活動も活性化し、ニュースは中身も豊かになりました。しかし発足当時270名だった会員は現在170名です。さらに多くの人たちに加わってもらうために、「ニュース」の内容の充実などを含めて多くの努力を要する状況です。

部会活動について

■ぐんま教育文化フォーラムホームページの別館としてあらたに「原発と自然エネルギー部会の部屋」をスタートさせました。現場の先生方に訪問してもらうことを期待しています。特に理科、社会の先生方にみてもらい、原発問題について関心を深めていただきたい。原発問題に関する書籍を集めた原発文庫には現在400冊の蔵書があります。

■「近現代史ゼミ」は2000年1月から始まりました。何回になるかわかりませんが大変な回数になります。ほとんどを内藤真治さんが担当してきましたが、今後の運営方法が課題となっています。現在は複数講師体制をとっています。

出席者の発言から

■観点別評価が導入された学校現場では実際に機能するのかの議論ができていない。

「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つ観点について観点別に問題を作ることがむずかしい。